



市の独自予算で 地域経済とくらしを守る政策を





2026年第2回市議会定例会が6月1日から6月24日まで開かれ、日本共産党はイラン情勢の影響について、教育、福祉、中小企業支援、環境問題などについて代表質問を行いました。

要望書を担当者へ提出。左から渡辺議員、井口副団長、経済労働局経営支援部長、宗田団長、石川議員、後藤議員

イラン攻撃に端を発したホルムズ海峡の封鎖が長期化する中で、本市の市民や事業者にも深刻な影響が出ています。
川崎市議団は、4月30日に「イラン情勢の影響から地域経済と暮らしを守る対策を求める要望書」を市長に提出し、実態調査や、対策を講じるための補正予算の編成などを求めました。6月議会でも、どのように対応するのか市長に質したところ、国の補正予算による重点支援地方交付金を活用するとの答弁で、市独自の補正予算についての答弁はありませんでした。

提案されたゼロゼロ融資の拡充を

追加議案で提案された支援策は、信用保証料100%補助の一件のみで、国からの事業費約2.9億円、利用想定件数は670件と極めて限定的で小さい支援にとどまりました。コロナ禍のように、市が利子補給をして無利子・無担保のゼロゼロ融資にした場合、市の追加事業費は約4億円とのこと。財政調整基金の残高123億円を使って4億円を追加し、コロナ禍並みのゼロゼロ融資にすることを求めました。

公共施設の統廃合で ホールやプールが減っている！ 横浜のホールは川崎の4倍、プールは3倍

市の「公共ホールの最適化に向けた取り組み方針」が出され、川崎能楽堂、幸市民館、国際交流センター、すくらむ21などが統廃合の対象に挙がっています。これに対するパブリックコメントでは、620件の意見のうち、9割以上が廃止・複合化に反対する意見でした。川崎市の公共ホールは他政令市と比べて統廃合が必要なほど多くはありません。一方、横浜市は人口あたりで川崎市の4倍ものホールを持つ施設があります。※下表参照

公共プールについても同様に、人口あたりでみても川崎市は横浜市より圧倒的に少ないという状況です。これらの施設は、削減ではなく増やすべきと市長に質しました。

	川崎市 (個所数)	横浜市 (個所数)	川崎を横浜と比べ ると(人口あたり)	政令市 (人口あたり)
公共ホール	11	120	横浜の4分の1	下から4番目
公共プール	7	42	横浜の3分の1	下から5番目

水道料金の値上げはすべきではない

上下水道事業をめぐって市は、9月議会に提案する料金、使用料の改定の方性を示しました。水道料金は20%台前半、下水道使用料は10%台前半の値上げ幅とするとしています。月に21立方メートル使用する世帯では年間で約12,000円の値上げになるとされています。市議団は、市民生活に欠かすことのできない水の供給や下水処理費用の市民負担は軽減するのが自治体のあるべき姿だと訴えました。

市長は、改定による市民負担は水道、下水道の管路、施設などの更新、耐震化を進めるためと答弁しましたが、これらはもともと税金で整備すべきで、市民に負担のかかる水道料金収入に求めるのはまちがいと質しました。



6月5日「水道料金の値上げ問題をどう考えるか？」学習会を行いました。

女性・女系天皇も議論すべき 意見書に対する反対討論

今議会には下表の意見書案が提案されました。

「皇位継承に関する」意見書について、「憲法上、天皇は『国民統合の象徴』であり多様な性をもつ国民の象徴である。なぜ女性・女系天皇がなれないのか。世論調査では女性・女系天皇に賛成する人は約7割と大多数になっている」と指摘して反対討論しました。「校外活動における安全管理の強化」の意見書に関して、安全管理、事故検証などの要請項目については、真摯に取り組むべきだが、教育基本法14条2項を意見書に併記することは、国による教育内容への介入を示唆するとして反対しました。日本共産党はスパイ防止法につながる「国家情報会議設置法の廃止を求める意見書」を提案しましたが、賛成少数で否決されました。

件名	議決結果	共産	自民	みらい	公明	維新・川崎	無所属
学校給食無償化に向けた財源確保の早期実現を求める意見書(案)	可決	○	○	○	○	○	○
ドナーミルクの安定供給の促進を求める意見書(案)	可決	○	○	○	○	○	○
特別市制度に関する県民の適切な理解及び建設的な議論の推進を求める意見書(案)	可決	×	○	○	○	○	3人○
安定した住まいの確保及び居住支援の抜本的強化を求める意見書(案)	可決	○	×	○	○	×	○
国家情報会議設置法の廃止を求める意見書(共産党起案)	否決	○	×	×	×	×	×
皇室の伝統に基づく安定的皇位継承を確保するための法整備の早期実現を求める意見書(案)	否決	×	○	×	×	○	×
皇位の男系継承維持を求める意見書(案)	否決	×	×	×	×	×	4人○
校外活動における安全管理体制の確保を求める意見書(案)	否決	×	×	○	×	×	○

※みらい会派＝立憲民主、国民民主所属議員の会派
※川崎・維新＝あしたの川崎、維新の会所属議員の会派

2026年 市民アンケートにご協力ください

物価高騰・子育て・高齢者など市政に関するみなさんのご意見・ご要望をお聞きし、議会活動に生かすためのアンケートにご協力をお願いいたします。

右記のQRコードから回答できます。



すべての世帯で増額！

国民健康保険料の
引き下げを求めました

2026年度の国保料が示され、医療分・支援分・介護分の所得割額及び均等割の全ての保険料率が引上げになった上、医療給付と別の目的の子ども・子育て支援分が上乘せされました。その結果、年金収入300万円70代高齢者夫婦2人世帯の年間保険料は昨年度26万7050円から8.3%増の28万9210円に、年収400万円40代夫婦小学生子ども2人世帯の年間保険料は46万8420円から7.9%増の50万5520円にも引上げになります。単身、子育て、高齢者世帯、全ての世帯で大幅な増額になります。

昨年までは一般会計からの繰り入れで保険料軽減を図ってきましたが、今年度から保険料軽減の繰り入れをなくしてしまいました。高齢者、個人事業主など低所得者の多くが加入の国保です。これまでも困難な生活をいっそう追いつめる状況が明らかな中での国保料の引上げになります。保険料は市が独自に決められます。一般会計からの繰り入れで保険料の軽減を求めました。



ひきつづき正規の教員増を

市議団では正規の先生を増やすよう求めてきました。今年度は定数を増やし、積極的に正規の先生を増員した結果、先生不足により35人以上のクラス編成などの状況をなくすことができました。しかし、今年度5月1日時点で、欠員は173.5人、未充足は82.5人でした。本来はどちらもゼロでなければなりません。来年度は当初から欠員も未充足もゼロとなるよう、正規の教員を増やすことを要望しました。



定数の削減は
市民とのパイプを細くする

現在の議員数を60人から、53人にする定数削減の改定案が川崎・維新会派から提案されました。議員は、議会と行政に住民の声を届けるとともに、行政・首長の行政運営を住民の立場から監視し、チェックする役割を持っています。これ以上の議員定数の削減は、多様な市民の声の切り捨てになりかねないとして反対。定数削減の背景にある「もっと、市民の声を聞いてほしい、議員にしっかり働いてほしい」という思いに答えるよう、小数会派などの少数意見の尊重、請願・陳情者の意見陳述の機会を保障するなど、改革を進め、より開かれた市議会になるよう努力していくことが必要と反対討論し、改定案は否決されました。



後藤まさみ
(川崎区)

- 夏季における登下校等学校生活での服装の周知について
- テニスコート及び野球場等の暑熱対策について（富士見公園、池上新田野球場等）
- 公園トイレの建て替えを含む洋式化及び美化状況について（姥ヶ森公園、桜川公園）
- 大師地区複合施設の設計に関する市民意見の反映について
- 騒音測定局の殿町小学校からの一時撤去について



渡辺 学
(幸区)

- データセンターの建築及び稼働に関する環境アセスメントについて
- 国民健康保険料の均等割について
- 幸市民館改修における代替場所の確保について
- 街区公園の日陰確保について



市古次郎
(中原区)

- 風水害時対応の予見性を高める気象防災アドバイザーについて
- 給食アンケートについて
- 川崎緑の基本計画の改定について
- タワーマンションの出口戦略について



小堀しょうこ
(高津区)

- 昨年9月11日の大雨による二子地域での浸水被害対策について
- 宮内・諏訪・二子・宇奈根排水樋管の長期対策について
- すくらむ21の役割について
- 高津市民館のホール改修について
- 市立高等学校改革について

6月議会 一般質問 市民要望の実現を求め全員が質問しました



むねた 裕之
(高津区)

- 矢上川地下調整池について
- 平瀬川護岸工事について
- 宮内新横浜線（子母口工区）について



石川 けんじ
(宮前区)

- 南野川2丁目の浸水対策について
- 川崎市中央卸売市場北部市場機能更新事業について
- 川崎市高等学校奨学金（学年資金）について
- 鷺沼駅前地区再開発事業について
- わくわくプラザと学童保育事業について



井口 まみ
(多摩区)

- 小田急電鉄「2026年度鉄道事業設備投資計画」における本市の対応について（ホームドア、ワンマン運転化、立体化・複々線化）
- セーフティネット住宅における専用住宅と市営住宅の空き家修繕費について
- 水道事業について（生田浄水場、神奈川県内広域水道企業団）
- 災害対策について（風水害時の避難所の在り方）



斉藤のどか
(麻生区)

- 教職員等による児童・生徒への性暴力の防止について
- 市立高等学校改革等について
- コミュニティ交通について
- 柿生の里特別緑地周辺の環境整備について